

基本理念

福岡・北九州両都市圏における安全・円滑な都市高速道路ネットワークを運営することにより、都市圏内外の人と物の交流を促進し、経済の発展、環境の改善及び生活の向上に貢献します。

○人と物の交流促進

- ・ 移動圏の拡大

○経済の発展

- ・ 市街地の拡大

○環境の改善

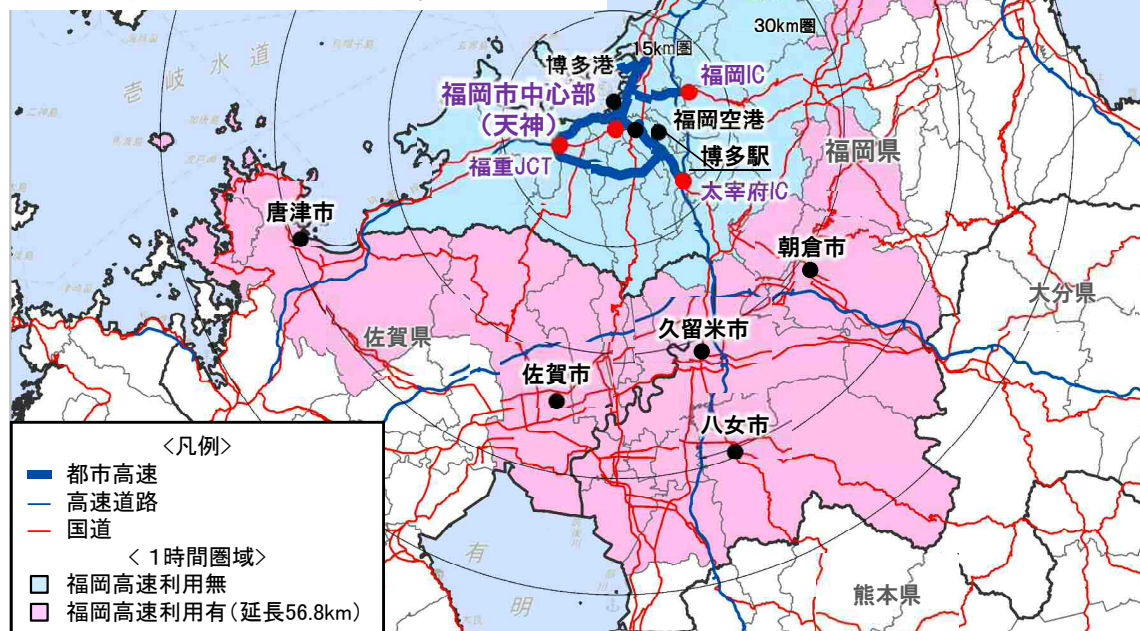
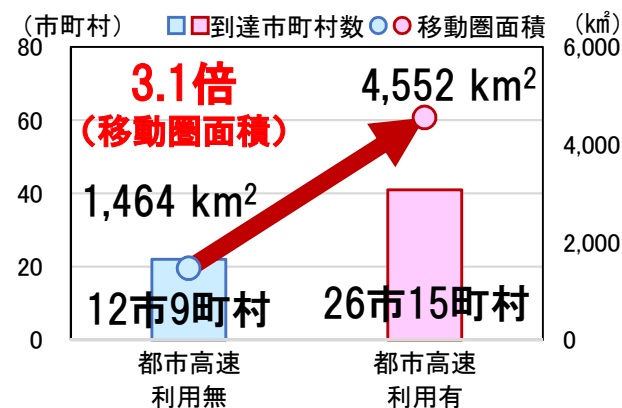
- ・ CO2排出の抑制

○生活の向上

- ・ 交通安全の確保
- ・ 災害時の代替路
- ・ 身近な都市高速

- 福岡都市高速の利用で、福岡市中心部(天神)からの**1時間移動圏が約3.1倍拡大**
- 高速ネットワークである九州自動車道や西九州自動車道から福岡市中心部(天神)までの所要時間は約11分～20分短縮され、**定時制・速達性が向上**

■福岡市中心部(天神)からの1時間移動圏



【算出条件】

1時間移動圏: 福岡市中心部(天神)を拠点として自動車利用により1時間で到達可能な市町村
 各市町村の役所・役場までの到達時間を「平成27年道路交通センサス」の旅行速度より算出
 面積: 国土地理院「令和2年全国都道府県市区町村別面積調(1月1日時点)」より算出

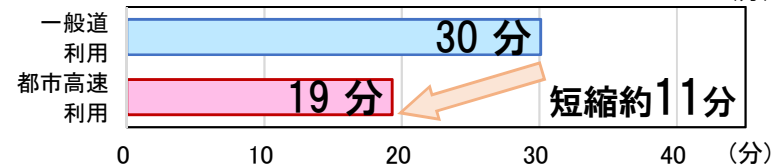
時間短縮の例



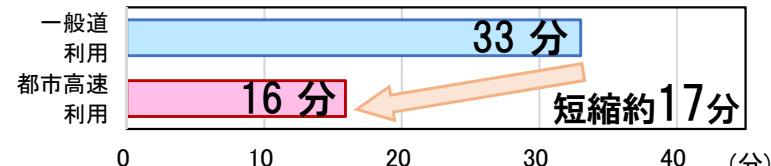
太宰府IC⇔
福岡市中心部
(天神)



福岡IC⇔
福岡市中心部
(天神)



福岡JCT⇔
福岡市中心部
(天神)



【算出条件】 所要時間は、平成27年道路交通センサスの旅行速度を用いて算出



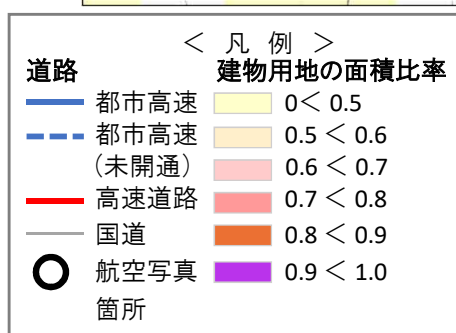
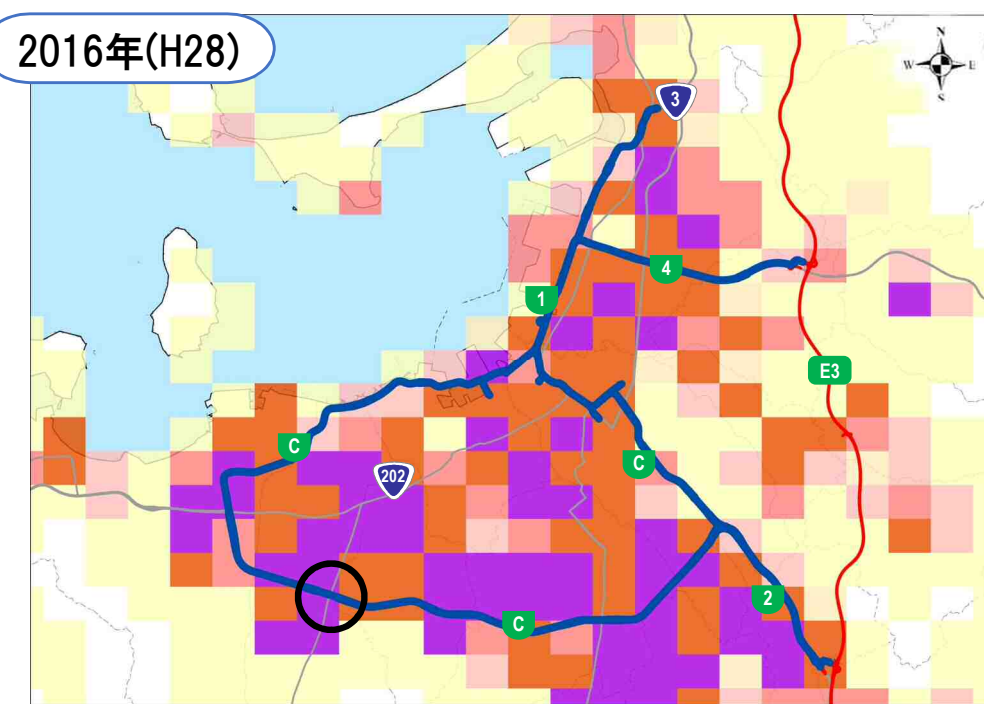
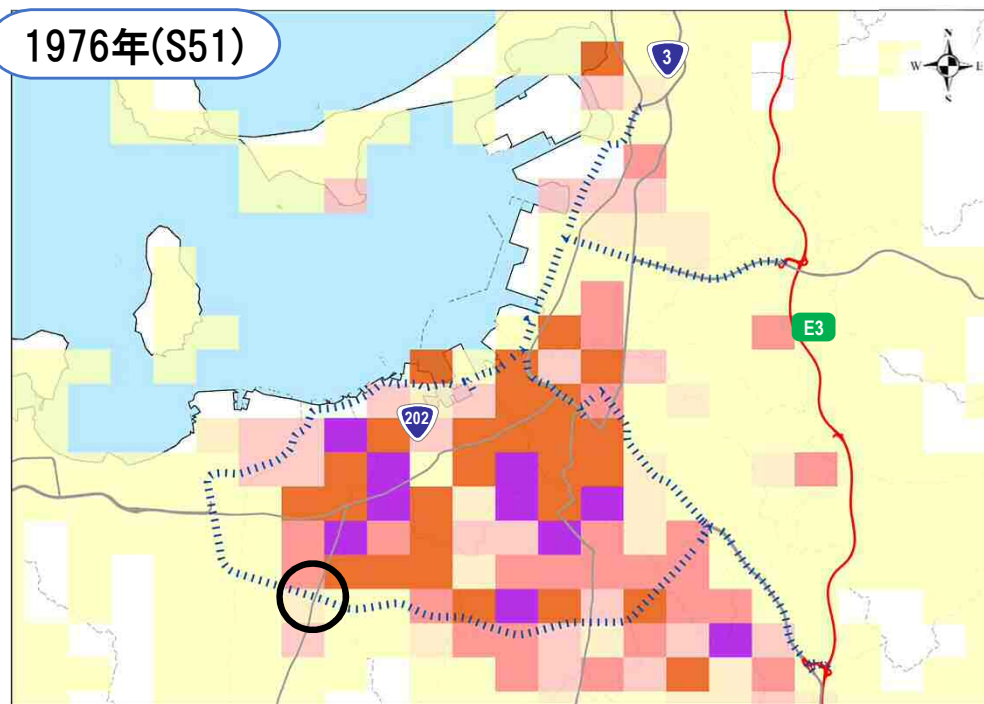
福岡市住民

- 福岡市中心部(天神)や福岡空港へ移動する時は福岡都市高速を利用しています。

※住民アンケート

- 福岡都市高速道路の整備と共に、**建物用地として利用される面積の割合が増加**

■建物用地として利用される面積比率

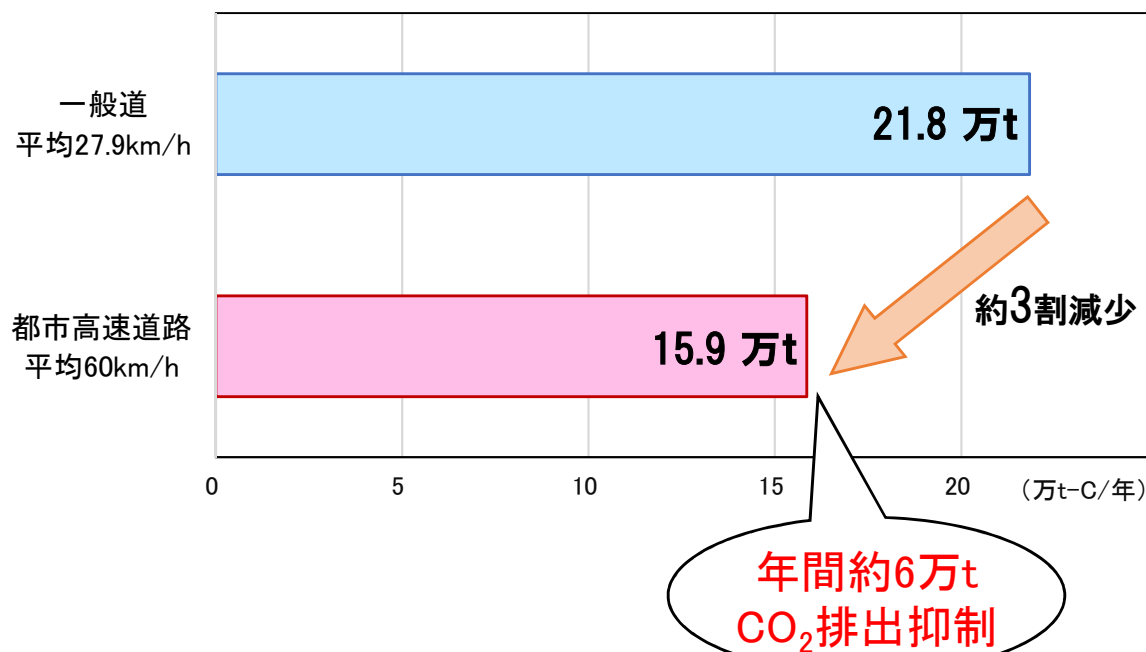


【算出条件】
3次メッシュ(1km四方)内に占める建物用地(100m四方)のメッシュ数で建物用地の面積比率を算出
面積比率0.5:3次メッシュ内の建物用地が50メッシュ
面積比率1.0:3次メッシュ内の建物用地が100メッシュ
建物用地:国土交通省「土地利用細分メッシュデータ」より算出

※出典：
国土地理院ウェブサイト「空中写真」

- 福岡都市高速の利用で、一定速度での走行や一般道路の渋滞緩和など、環境負荷の低減に貢献
- 自動車からの二酸化炭素(CO₂)排出量は、一般道路を走行した場合に比べ**年間約6万t**(**福岡市面積の16%**に当たる森林が1年間に吸収するCO₂量に**相当**)**抑制**

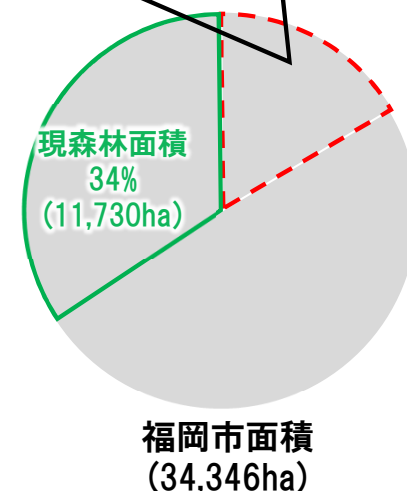
■年間CO₂排出量



■CO₂排出抑制効果イメージ



森林面積5,633haは、**福岡市面積の約16%**に相当

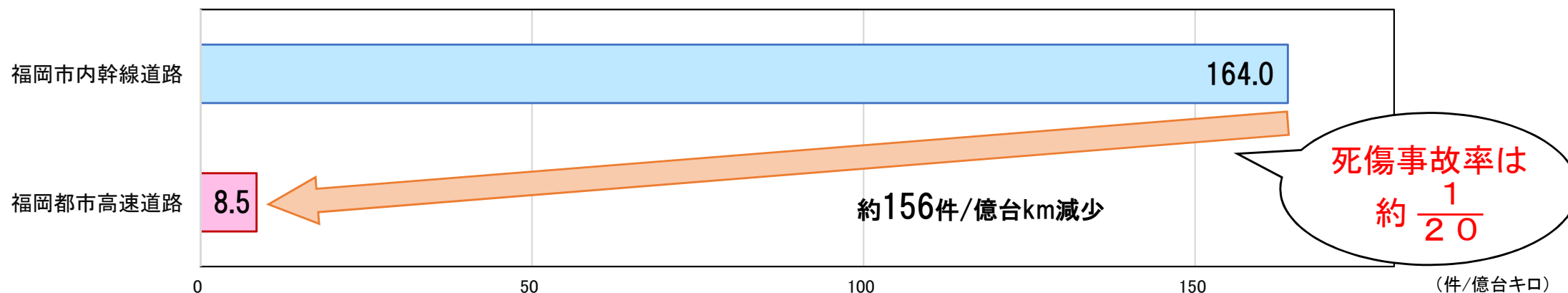


【算出条件】
 福岡高速道路の平均利用台数 18.2万台/日(令和元年度実績)、
 平均利用距離 12.2km(令和元年度実績)、
 大型車混入率 12.9%(平成27年度道路交通センサス)、
 福岡市内の一般道路平均速度 27.9km/h(平成27年度道路交通センサス)

【根拠資料】
 CO₂排出係数:
 「道路環境影響評価等に用いる自動車排出係数の算定根拠(平成22年度版)」(国総研資料第671号)
 CO₂吸収量:
 「土地利用、土地利用変化及び林業に関するグッド・プラクティス・ガイダンス(優良手法指針)」による

- 歩行者・自転車が通行しておらず、交差点のない自動車専用道路であるため、交通事故に遭う確率を示す**死傷事故率は約8.5件/億台kmと福岡市内幹線道路に比べ約20分の1**であり、一般道路に比べ安全

■死傷事故率※1



※1 死傷事故率:1万台の車が1万km走行した場合に起こる死傷事故件数を表す

【算定条件】

福岡市内の幹線道路は、平成27年道路交通センサス及び福岡県オープンデータサイトより算出
 福岡都市高速道路は公社データ(令和元年度交通統計年報)より算出
 福岡市内幹線道路:福岡市内の一般政令指定市道以上の幹線道路

交通安全対策の例

○スリップ事故対策



▲百道⇄姪浜

○追突事故対策



▲半道橋出口

○逆走防止対策



▲野芥西出口

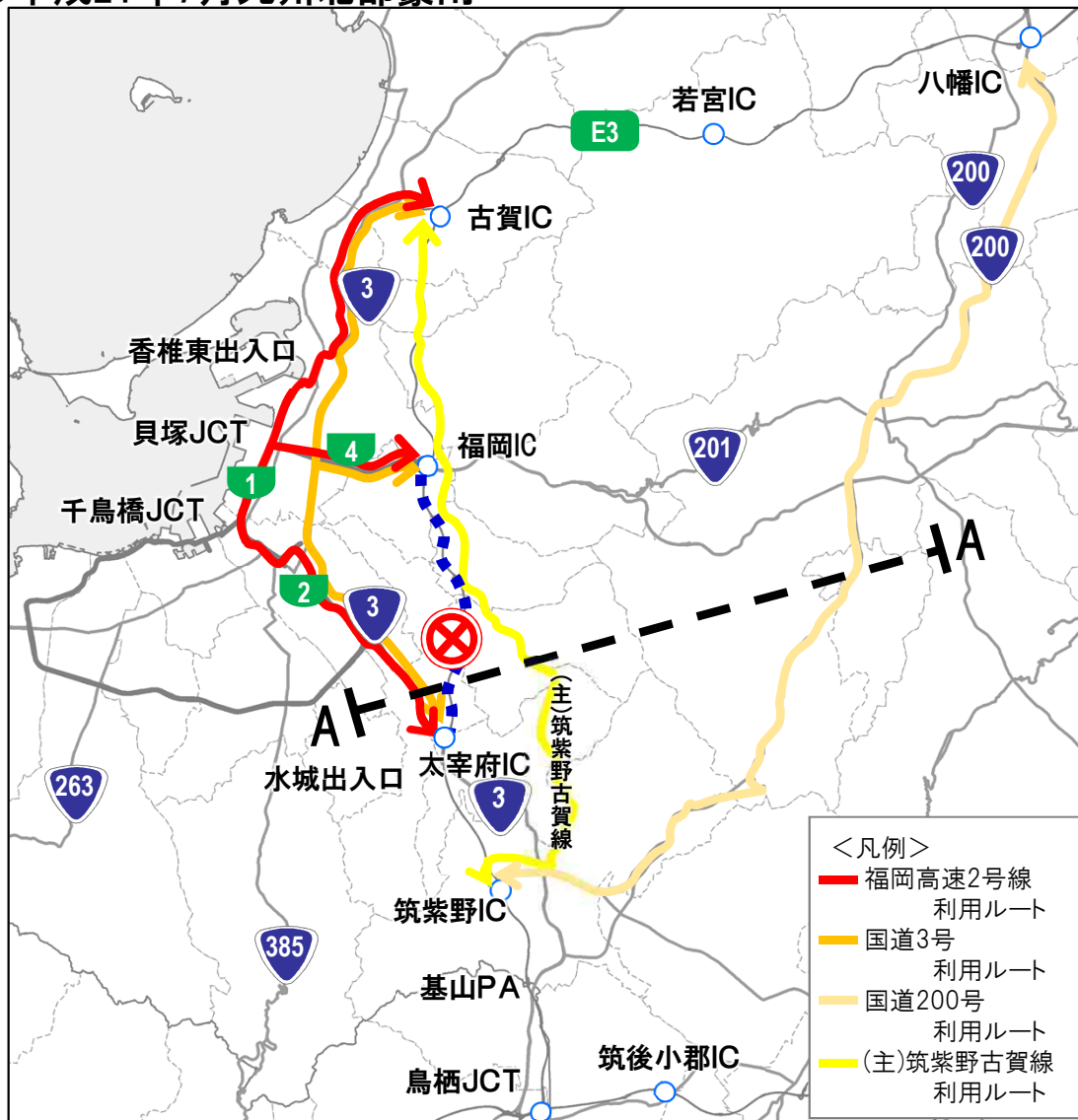
- 平成21年7月九州北部豪雨により九州自動車道(福岡IC～太宰府IC間)で通行止めが発生
福岡都市高速道路は九州自動車道(福岡IC～太宰府IC間)通行止め期間※に**代替路として機能**

※1 通行止め期間: 7/26 11:00～8/12 13:50までの約17日間

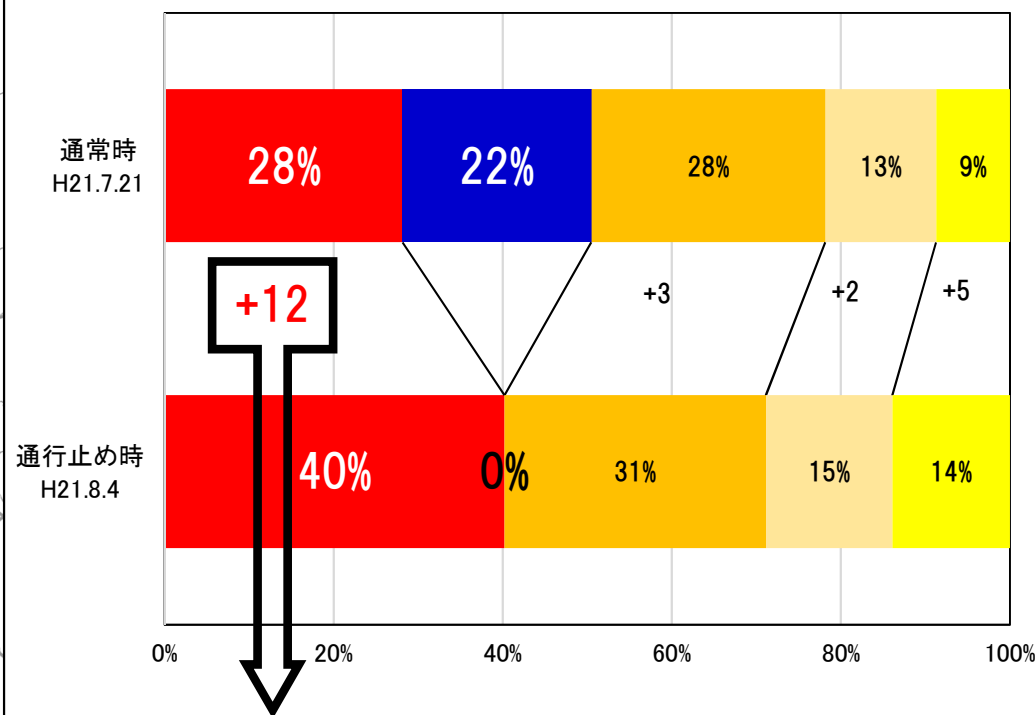
■災害時(平成21年7月九州北部豪雨)における福岡都市高速道路の使い方

○平成21年7月九州北部豪雨

○A断面における利用割合



■福岡高速2号線 ■九州自動車道 ■国道3号 ■国道200号 ■(主)筑紫野古賀線



九州自動車道の通行止め時に**福岡高速2号線**の利用割合が約**12ポイント**増加。

- 福岡都市高速への10分カバー圏人口はS55年からR3年にかけて**約3.9倍**、福岡市内の人口カバー率は64ポイント増加
- 都市高速や関連道路の整備が進むことで利便性が向上し、定時性・速達性に優れた道路サービスの提供が拡大

福岡都市高速道路の10分カバー圏

